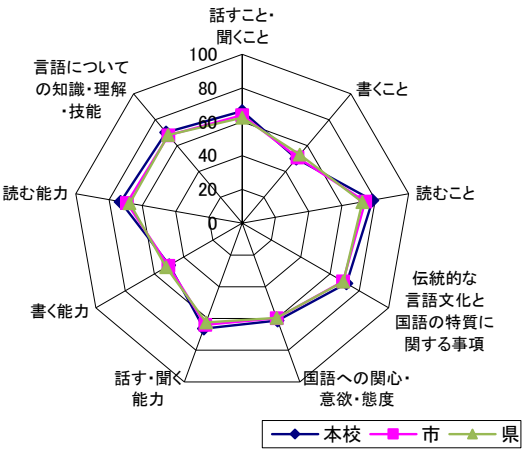


宇都宮市立西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	66.4	64.0	62.5
	書くこと	50.0	50.9	53.1
	読むこと	78.3	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.2	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	61.2	59.9	59.7
	話す・聞く能力	66.4	64.0	62.5
	書く能力	49.8	50.4	52.0
	読む能力	73.1	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	70.1	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

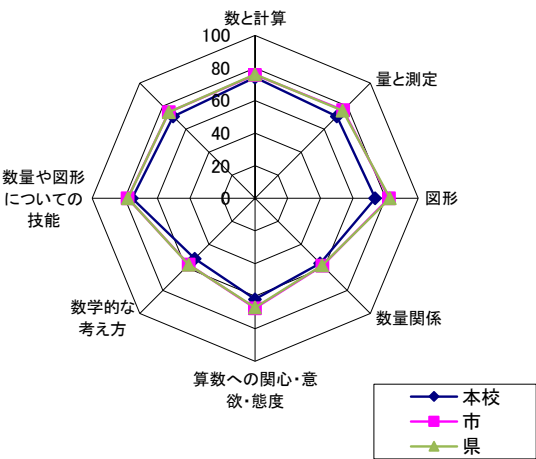
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県・市の平均に比べて高い。 ○話し合いの内容を、注意して聞きとることができた。 ○話題に沿った内容を、意見と理由を考えて、自分の言葉でまとめることができていた。	・少人数やグループでの話し合い活動を多く取り入れたり、テーマを設けたスピーチを実践したりしながら、分かりやすく話すことと、考えながら聞くことの両面を意識し、コミュニケーション力を定着させていきたい。 ・伝えたい内容を言葉に起こして表現できるよう、自分の考えを整理して「書く」実践を取り入れ、相手に分かりやすく、筋道を立てて伝えることを意識させていくようにする。
書くこと	平均正答率は、市の平均に比べてやや低い。 ○理由や事例を挙げて文章を書くことについては、市とほぼ同等であった。 ●指定された長さで文章を書くことや、書こうとするものの中心を明確にして文章を書くことにおいて課題が見られた。	・学校行事の振り返りや日記指導を継続して行うことで、書くことに対する抵抗をなくし、意欲的に取り組めるようにする。 ・基本的な知識を押えて指導し、文章の間違えを正したり、よりよい表現に書き直したりして、一人一人の能力に応じた指導をしていく。 ・国語の作文指導や日記指導を行う際に、テーマや長さを設定して書く機会を設け、条件に沿った文章を書く力を高めていく。
読むこと	平均正答率は、県・市の平均と比べて大きく上回った。 ○物語文において、目的や必要に応じて、場面の様子や登場人物の気持ちを読み取ることができた。 ○説明文において、段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることができた。	・日頃から読書に親しみ、要旨や感想を簡単にまとめる時間を確保するなど、読むことへの抵抗をなくしていく。 ・教科書で扱った物語の同作者の作品や、類似した分野の説明文などを並行読書として取り上げ、読書活動の幅を広げていくことで様々な本に触れていくようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県・市の平均に比べて高い。 ○漢字の読みについては、9割程度読めている。 ○ローマ字表記については、つづりをよく理解している。 ●漢字を書くことについては、画数の多い漢字にかなり誤りが見られるなど、書ける漢字と苦手な漢字がはっきりしている。	・漢字ドリルを活用しながら、繰り返し取り組み、定期的にミニテストを実施して、定着を図っていく。 ・書写では、めあてを確認しながら、正しい筆順や字形を意識して書くことができるよう、とめ・はね・はらいなどについても丁寧に指導していく。 ・すべての教科の学習や生活場面において、既習漢字を使って文章を書かせるように指導する。

宇都宮市立西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.2	75.8	76.1
	量と測定	71.0	76.5	76.0
	図形	73.7	82.1	82.7
	数量関係	56.4	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	61.9	67.4	67.0
	数学的な考え方	52.3	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	75.5	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	71.2	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

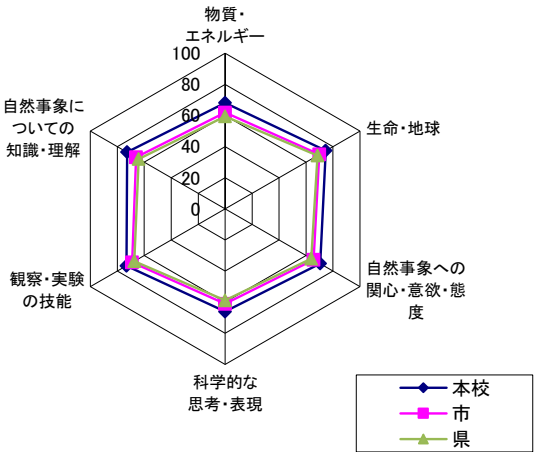
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県・市の平均に比べて低い。 ○基本的な計算問題は平均とほぼ同じであった。 ●2けた以上の計算の意味や、計算の工夫、小数の仕組みに関する理解が低かった。	・筆算などの計算の途中で、それぞれの数字がどんな意味を表しているか確認しながら指導していく必要がある。 ・計算ドリル等を活用し、問題を繰り返し解かせることで、正確に計算できるよう定着を図っていく。
量と測定	平均正答率は、県・市の平均と比べて低い。 ○はかりの読み方はよくできている。実際に道具を使って学習をすることで、目盛りの読み取りに慣れることができている。 ●時間の比較や時間の単位の変換が、平均と比べて正答率が低かった。 ●道のりと距離について、それぞれの意味の理解や図からの読み取りが平均と比較して低かった。	・実際に道具で計測したり目盛りを読んだりすることはできるため、今後も具体物を使用した活動を継続して取り入れていく。 ・時間や道のりの問題については、問題文を繰り返し読んだり、図に表したりしながら理解できるようにしていく。
図形	平均正答率は、県・市の平均と比べて大きく下回った。 ●作図が平均を下回っている。領域別に見ても、図形の正答率が平均を下回っていた。図形についての基本的な理解や作図の技能が課題と考えられる。	・定規を使った直線や、コンパスの使い方の技能面を伸ばしていく必要がある。無回答の児童には基本的な描き方を改めて確認し、家庭学習などで定着を図っていく。また、作図したあとに、細かく添削や確認をしていく。
数量関係	平均正答率は、県・市と比べて低い。 ○棒グラフの読み取りは、平均とほぼ同じであった。 ●□を使った式では、式を立てることはできていたが、問題文を読んでテープ図に表す設問の正答率が県・市に比べて低かった。	・問題文を正しく読み取ること、自分の考えを言葉や文字であらわすことが課題である。授業のなかで、答えだけでなくその理由や、補足などについてノートに記入させるようにしていく。 ・問題文に応じてテープ図を自分で書き起こす活動を増やし、そこから式を考えられるように指導していく。

宇都宮市立西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	68.1	61.9	59.4
	生命・地球	74.6	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	70.5	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	66.0	61.0	58.8
	観察・実験の技能	73.2	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	72.8	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県・市の平均を大きく上回った。 ○光の性質の問題では、はね返した光を重ねたところの明るさについてはとてもよく理解していた。 ○ものの重さの、種類の異なる同体積の物体の正体を情報を読み取って推測する問題では、県・市の平均に比べて高い結果だった。 ●磁石の性質についての設問では、平均に比べて正答率が低かった。磁石に付けた鉄が磁石と同じ性質をもつようになることや、方位磁石の指す極の向きについての理解に課題が見られた。 ●電気工事の際にゴム手袋や長靴を使用する理由について説明する記述問題では、ゴムの性質のみの記述や、感電を防ぐことのみの記述に留まっている回答が多かった。	・方位については、日常生活や社会科等との関連を図り、理解を深めていく。 ・授業で学習したことを、身の回りの日常生活と関連させ、十分な根拠をもとに、自分で分かったことを書く活動を増やしていく。 ・日頃の授業においても、「なぜだろう」という疑問や、「なぜこうなるのか」という結果からの考察を行い、自分で理由をつけて説明できるように指導していく。
生命・地球	平均正答率は、県・市の平均より高い。 ○昆虫の育ち方では、モンシロチョウの成長の期間についての問題で、正答率が8割を超えており県・市の平均よりも大きく上回っていた。実際に教室で卵から成虫までの観察を行い、体験的に学習した成果であると考えられる。 ○太陽と地面のようすでは、地面の温度の変化の問題で、温度計を正しく読み取るとともに、時間の推移と日なたと日かげの地面の上昇について、互いに関連付けて理解することができた。 ●ダンゴムシの観察方法についての設問では、平均に比べて正答率が低かった。出題意図として、観察の視点に着目できてなかったと考えられる。 ●太陽とかげの動きについての設問では、県・市の平均正答率に比べて、やや低い結果であった。太陽の動く方位とかげのできる方位の理解に課題が見られた。	・今後も、児童の野外での発見や気づきを大切にしながら、自然体験的な活動の充実を図り、学習内容の定着を図っていく。 ・生き物や植物を観察する際には、虫眼鏡や温度計を常備し、使い方に慣れさせるとともに、使用目的を理解させ、正しい操作の定着を図っていく。

宇都宮市立西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」と答えた児童が90.9%であり、家庭学習が定着している傾向が見られる。家庭学習は主に復習を行っている児童が多い。

○学校の授業時間以外で学習している時間についても87.9%の児童が30分以上取り組んでおり、家庭での学習習慣が定着していると考えられる。

○「学校の宿題はためになっている」という質問に肯定的回答をした児童が97%であり、宿題に対する意識の高さと家庭での学習習慣につながっていると考えられる。

○読書をしている児童が市や県の平均と比較して多く、読書が好きな児童が多い。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」との質問に、肯定的回答をした児童が90.9%であり、学校での学習に意義を感じながら学習できている。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合ってクラスの決まりなどを決めていると思う」と回答した児童は100%である。自分たちできまりを決めているという自覚が、役割や係の仕事に対する責任や自分は役に立っているという自己有用感につながっていると考えられる。

○「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童の割合は90.9%であり、平均よりも高かった。学校や家庭で児童の良いところを認め、ほめて伸ばす教育を実践しているので、児童の自己肯定感につながっていると考えられる。

○「家の人と学習について話をしている」の肯定的回答した児童は90.9%と、平均よりも高かった。家族で話をする機会があり、学校のことや将来のことについても話し合っている様子が見られる。

●「グループなどで話し合いに自分から進んで参加している」と回答している児童の割合は市・県の平均よりも低く、参加しないわけではないが自分から参加しに行くことが苦手な児童が見られる。ノートやワークシートに自分の意見を書かせて互いに見せ合い、良いところを認め合う場を設定することで自信をもたせ、話し合いに参加する意識を高める指導をする。

●「クラスは発言しやすい雰囲気である」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答が平均よりも低かった。自分の考えを発表することに抵抗を感じている児童が多いと考えられる。間違ったり、意見が違ったりしても大丈夫だという雰囲気づくりをしていくことで児童が話し合いをしやすい雰囲気づくりを心がけていきたい。

●「毎日同じ時刻に寝ている」と回答した児童は多いが、睡眠時間が平均より短い児童が多い。

●「学校のきまりを守っている」の肯定的回答は、平均よりも低かった。自分たちでクラスのきまりを決めたり、学校全体のきまりを理解したりはしているが、実際に守れていない児童が一部見られる。きまりを守れなかった場面では、「なぜ守れなかったのか」「どうすればよかったのか」を考える時間を取り、改善できるように指導している。これに加え、きまりをよく守って生活している児童を褒めることで、学級全体の規範意識が高まるように更なる指導の充実を図りたい。